

新しい出会いに向けて

この町・あの人・この話

No.120

浅海 道子 (周南市富岡)

佐田先生、 ありがとうございます!! (上)

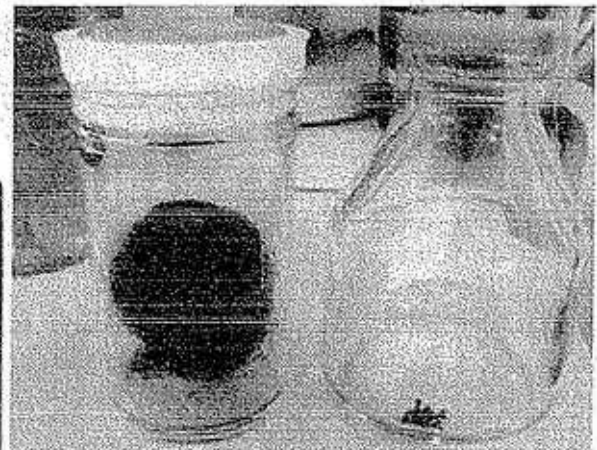
三年前、ヨーロッパからの帰りの飛行機の中で、背中に異常な痛みを感じた。

「長いフライトは私には無理かな?やはり年をとった証拠」などと思いつつ帰国したが、胃のあたりの不快感がたまらない。

安心もし不安にもなる複雑な気持ちになったのは胃がんでなかった安心感と小さな胆石なら胆管に流れて、激痛がいつ来るかわからない不安である。

術したらいい。私も胆嚢をのけてから何ごともない。心配せずさつさと摘出したほうがいい」と言われる。

驚いてしまいい「今年に入って手術しようかと迷っているんです」と言うとき、その婦人は「今年手術をしてはいけません」ときっぱり言われた。



左はある方の巨大な胆石、右がごみのような私の胆石

大雪の中、きょうは患者もあまりいないだろうと病院に出かけた。検査のあと再度、診察室に入ると「いつ手術しましょうか?」と。思わず「先生が執刀して下さいのなら、いつでもいたします」と答えた。

表 (カナダ友好協会代)

新しい出会いに向けて

この町・あの人・この話

No.121

浅海 道子 (周南市富田)

佐田先生、 ありがとうございます!! (下)

中学時代の盲腸以来
五十年ぶりに突然
の手術なので準備の時

「やります」という強い言葉で安心する。入院するとすぐ胃の検査だが、キシロカインという麻酔薬が合わないのでも麻酔なし。特に異常はなく手術から退院までの流れを説明される。五千件近い手術の麻酔に関わっているベテラン医師の話も聞いて安心する。

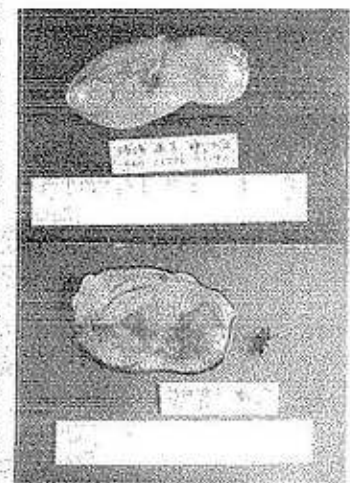
翌朝八時半、手術室に向かうため看護師がベッドを動かした時、夫、息子と娘が駆けつけた。肩に注射されて手術室に入り、名前を言ったあとは記憶がない。気づいた時は病室に戻っていた。

「麻酔から手術終了まで十五分ぐらいだったのでは？」と夫。待合室でゆっくり待つどころか、娘はトイレに行っている間に終わっていたという。胆嚢の癒着も術後の痛みもなく、麻酔が覚めたあとと橋詰主幹から電話があった。原稿で厳しいお言葉があったのかもしれないが、もうろうとして何を言ったかも覚えてない。

翌日からは歩いて六階のレストランで食事をしてほしいと許可が出た。佐田先生は術後は朝夕、多忙の中を穏やかな口調で様子を見に来て下さる。

レストランで食事と一緒にしたMさんは同年代の婦人。私より一週間前に手術したようだが、摘出された胆石は前回の写真で、四つもある大型だった。当然、腹腔鏡下では手術できず、開腹手術で二十数針縫ったという。胆嚢は三倍ぐらいにふくれあがって小腸に癒着し、手術に一時間半かかったそうで、痛み止めを飲まないと言った。

「どこに傷があるの？」とMさんが驚く。初めておへそ周辺を眺めたが、本当にどこに傷があるのか？ いたいどころから胆嚢を取り出したのだから。浅海さんの胆石は



摘出した胆嚢(上)
切開した胆嚢と胆石(下)

佐田先生

手術は有難うございます。又、

浅海道子

浅海道子